

◆暮らしサポート サポート・ワン◆訪問介護
 ナイス・ケア◆通所介護ナイス・デイ◆小規模
 多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料
 老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹
 介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひ
 ら◆鍼灸てのひら治療院 ◆酸素BOX



vol. 266通信
 R4年10月7日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
 愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
 代表TEL：(0567) 26-3921
 FAX：(0567) 26-3922

ホームページ <http://www.sos.co.jp>

介護スタッフ、登録家政婦、看護師大募集♪

問合わせ・見学 大歓迎！！

《利用状況案内板 (☆募集中★満員)》

☆ナイス・ケア (訪問介護/介護保険)
 ☆ナイス・デイ (通所介護/定員 10名)

月	火	水	木	金	土
7	7	6	7	7	5

☆ナイス・ホーム(定員17名、現在登録者15名)
 ☆愛宕の家(定員17名中入居者15人)
 ☆つしま紹介所 (有料職業紹介)
 ☆サポート・ワン(在宅ヘルパー/自費)

《10月行事予定》

6日 運営指導(ナイス・ケア)
 14日 運動会
 20日 総合防災訓練

※少しずつ外出等を行っています
 が、新型コロナウイルスの感染
 拡大予防のため、密になる
 行事は自粛しています。
 ※今後の行事予定も状況に合
 わせて変更する可能性があります。
 ご了承下さい。

《営業お知らせ》

喫茶てのひら 8/15(火)より通常営業
 営業日：月・火・木・金・土・日/水曜定休
 時間：9:00-12:30(モーニング営業のみ)
 ※入店制限(10名まで等)あり

酸素BOX

営業日：月・火・木・金・土/水日定休
 時間：9:00-17:00 完全予約制

鍼灸てのひら治療院

営業日：月・金・土(隔週)/完全予約制
 ※細々と再開中

★コロナ禍により営業休止★

・打太鼓(和太鼓)・コーラス
 ・ナイス・キッズ(学童・託児)
 ~詳細はお問い合わせ下さい~

心待ち/愛宕の家

10月より、愛宕の家のご家族の面会が、
 “喫茶てのひら”より“愛宕の家内”での面会
 が可能になりました。入居者さんもご自分
 が生活している空間に、ご家族が来てくれる事
 に心なしか嬉しそうにみえます。

Aさんは入居されたのがコロナ禍だったので、
 ご家族との面会はずっと“喫茶てのひら”
 でした。先日の面会時、「はじめて母がど
 んな所で生活しているのか見られて嬉しい
 です。」と興味深そうに眺めておられました。

Bさんは息子さんと居室で心置きなくお
 話が出来たようです。

Cさんは最初、フロアでご家族とお話さ
 れていましたが、「私の部屋も寄ってよ。」と
 居室に誘って見えました。

コロナ感染症で疲弊した約3年間。まだ、
 コロナ感染が無くなったわけではないし、感
 染対策はしっかりしていかないといいませ
 ん。でも、何が大切かを見極めて”その時
 “を大切にできる空間も守りたいと思いま
 す。

心待ちにしているみなさんの様子を見
 ながら、温かい気持ちになった週末で
 した。(K・T)

ピザ、美味しい
 ね~♪



運営指導/ナイス・ケア

10月6日(木)愛知県監査指導室の運営指導を受けました。指導監査室から2名、津島市高齢介護課から1名が来訪。

指導時間中、普段から疑問に思っていること・対応に苦慮していることを大なり小なり伝えると、項目に無いあらゆる疑問に対しても明瞭な指導を受けることができました。

その場の空気感や立場、表面的な実態や会話に振り回されず、事柄の本質を見極められる知識と考察能力が問題を根本から解決するに至るのだと納得。充足感に満ちた指導でした。

指導時間3時間30分程で改善点は以下の通りです。

◎ハラスメントの防止に関する方針を定め、従業員に周知・啓発を行うこと

→日常の研修内容を充実させ、周知・啓発に努めます。

◎アセスメントの充実にも努めること

→知り得た情報は可能な限り言語化しアセスメント記録として残すよう努めます。

ナイス・ケアは介護保険法上の訪問介護事業所ですが、運営には介護保険法は当然のこと、労働基準法や社会保険法、民法、医師法等の様々な法令が必要です。それらを紐付けし、日々のコミュニケーション等を通してながら日常業務を遂行できるようになりたい。今回の運営指導は、実態が成立することは全てにおいて法律が基にあることを再認識する機会になりました。(M・T)

豊かな生き方を探す時間/S・O・S

色々な人と出会う中で、人が生き方を選択することは難しいのだなと思うことが度々ある。病院であろうが施設であろうが自宅であろうが、“どう最期を迎えたいか”“リスクも含めどんな選択があるか・・・”そういったことに時間をかけて話し合える環境があまりにも少なく、また、自身で選択することもできない。もしくは、選択しているように見えて実は選択させられて(させて)いるかもしれない。愛宕の家入居という選択が豊かな生き方の選択支のひとつでありたい。

Dさん。熱が続く。表情も悪くなく、むしろ、熱があるのに穏やか。意識も感覚もしっかりしている。医師と相談しながら、やれることをやる。『入院は希望しない』これが家族の希望。Dさんも「病院は恐いで嫌。ここにいたい。」と、はっきり言われた。2年前、他施設に入所中、老衰で胃瘻やIVHしかないとされた。Dさんの娘さんが何処かでSOS通信を見かけ、愛宕の家を訪ねてくれたのがきっかけで入居。職員が作る家庭料理でいつの間にか食べることが普通になっていたDさん。元気に過ごしていたDさんは、熱が出たと思ったら、あっという間に逝ってしまった。前日はお風呂にゆっくり入っていた。

Eさん。入居して数年経過していたEさん。諸般の事情から他施設へお引越し。そろそろ次の施設にも馴染んだ頃と思っていた矢先、突然の家族来訪。『今、入院して、胃瘻かIVHかと言われたが、どうしていいのかわからない』と相談に来られた。どうしたものか迷いつつ、“愛宕の家への再入居”を前提に、SOSでは何が出来るかを提示。医療機関からは、「希望を持たせるようなことを言ってくれるな。」と言われたが、協力医療機関の先生はじめ家族とじっくり話し合いながら退院。愛宕の家で、娘さんが買ってくれるチュッパチャップス(飴)を自分の手で持ち美味しそうに食べている。胃瘻もIVHも選択していない。Eさんは『次はおはぎが食べたい』とニヤリと笑いながら話している。

Fさん。末期。家に帰って自宅で最期を迎えたいと自身の覚悟は決まっている。家族は、大切な人の最期を自宅で看取ることの恐怖を感じている。入院先から一時的に？愛宕の家へ入居。どうしたら互いの気持ちに歩み寄れるのか、また、どうしたら本人の希望を実現可能にできるのか等、面談を重ね、話し合いは続いている。

ここにある3人のご家族の姿や今まで出会った方の姿を考えると、時間をかけて向き合うこと、言葉にすることはとても貴重で必要な時間だと教えてくれる。..そんな余裕はない..と、あちこちから聞こえてきそうな気がする。私だってそんな余裕はない！でも、でも..やっぱりここは、向き合う場所であり続けたい。(M・T)

《編集後記》コロナ禍で、地域との関わりが薄くなってしまっていた中、3年ぶり子供会のお獅子が事業所に訪れてくれました。子ども達の訪問は利用者さんだけでなく、私たちスタッフにとっても励みになりました。少しずつ、地域の方々との関わりが復活していけたらいいなと思っています。(Y・O)

SOS通信はホームページへの掲載と合わせ、地域の関係者や事業所、ご家族様へも発送しています。
10月送部数 105部



3年ぶりに子供獅子が来てくれました！！
 かわいい声で『はなきてっちょっ』と言われ、みんなニコニコ笑顔、獅子の大きな頭をなでなで。出向く事は出来ませんでした。が、地域の子供たちが出向いてくれた事に感謝です♪